

営農だより 野菜版 8号

J A ふじ伊豆御殿場営農経済センター
2026年（令和8年）8月20日発行

☆適期管理・適期防除・適期収穫で品質の良い野菜を栽培しよう！！

キャベツ・ブロッコリーの病害虫防除

秋雨期になると病害が多発する為、予防的防除・ほ場の排水対策を万全にしましょう。
また、病害虫の同時防除を心掛け、系統の異なる薬剤を交互に散布（ローテーション防除）しましょう。初期発生時の防除を怠ると被害が著しくなる為、注意が必要です。

【病害防除例】

薬剤名	系統 FRAC	対象病害虫	倍 率	1a 当り 使用液量	使用回数	収穫前
ダコニール1000	M 5	べと病・根朽病等	1,000倍	10～30ℓ	2回以内	①
Z ボ ル ド ー	M 1	黒腐病・べと病等	500倍	10～30ℓ	—	—
アミスター20フロアブル	1 1	菌核病・べと病	2,000倍	10～30ℓ	②	③

①：キャベツは収穫14日前、ブロッコリーは収穫21日前（出花蕾前）まで。

②：キャベツは使用回数4回以内、ブロッコリーは使用回数3回以内まで。

③：キャベツは収穫7日前、ブロッコリーは3日前まで。

べと病	外葉の葉脈間に、淡褐色、不整形でややへこんだ病斑を形成する。多湿を好み風雨などにより伝染する。密植を避け、排水を良くし過湿にならないように注意する。
黒腐病	葉脈から外側へ広がる黄褐色のV字形の病斑を形成し、生育の全期間にわたり発生。乾燥に極めて強く、被害作物残渣とともに土壤中で生存し、根の傷や、雨滴が跳ね上がり茎葉の傷から感染する。多発ほ場では、アブラナ科野菜の連作を避ける。また、食害性害虫の防除を徹底する。
根朽病	地際部から地下部の茎の皮層部が黒褐変してくびれる。生育全期間で発生するが、幼苗期から生育前期に発生すると被害が大きい。種子伝染・空気伝染する。被害茎葉は焼却し、アブラナ科野菜の連作を避ける。
菌核病	キャベツの場合、結球期に外葉の基部や地面に接する部分で、淡褐色の病斑を形成する。被害作物残渣とともに土壤に混入し、条件にもよるが複数年生存する。気温20℃前後の多湿条件で多発。薬剤散布は被害発生前の予防散布が効果的。

【害虫防除例】 ●は毒劇物の為、購入の際は印鑑（認め印）・身分証明書を持参下さい。

薬剤名	系統 IRAC	対象病害虫	倍 率	1a 当り 使用液量	使用回数	収穫前	毒劇物
プレバソンフロアブル5	2 8	コナガ・ヨトウムシ オオタバコガ・アオムシ等	2,000倍	10～30ℓ	3回以内	前日まで	
アフーム乳剤	6	コナガ・ヨトウムシ オオタバコガ・アオムシ等	1,000～ 2,000倍	10～30ℓ	3回以内	①	
フェニックス顆粒水和剤	2 8	ハイマダラノメイガ・アオムシ ヨトウムシ・コナガ等	2,000～ 4,000倍	10～30ℓ	②	前日まで	
モスピラン顆粒水溶剤	4 A	アブラムシ類・アザミウマ類等	2,000倍	10～30ℓ	③	④	●

①：キャベツは収穫前日、ブロッコリーは収穫3日前まで。

②：キャベツは使用回数3回以内、ブロッコリーは使用回数2回以内まで。

③：キャベツは使用回数5回以内、ブロッコリーは使用回数3回以内まで。

④：キャベツは収穫7日前、ブロッコリーは収穫14日前まで。

コナガ	黄白色～緑色のイモムシが葉や新芽を食べる。幼苗期に多発すると、芯葉に潜り込んで葉の生長を止める為、被害が大きい。幼虫として越冬し、春～秋に7～10回発生する。特に5～6月と9～11月の発生が多い。
アオムシ	緑色のイモムシが葉を食べる。葉に大きな穴があき、多発すると葉脈を残して葉が食い尽くされる。蛹で越冬し、夏の発生は少なくなるが、春～秋にかけて、長い期間発生するので注意が必要。
ヨトウムシ	イモムシが集団で葉を食べてボロボロにする。若齢幼虫は葉裏で集団生活し、葉表の薄皮を残して食害する。蛹で越冬し、4～6月と8～11月に多発し、ナス・ネギ・キク等にも被害を及ぼす。
ハイマダラノメイガ	淡褐色のイモムシが芯葉や茎に潜り込む。幼苗の葉と葉をつづり合わせて内側を食べたり、大きな葉の葉柄や葉脈に潜り込んだりする。高温少雨の年に多く、8～10月に多発する。
アブラムシ類	楕円形の虫が集団で葉の汁を吸う。葉裏に1～2mmくらいの虫が群がって葉の汁を吸い、葉が黄色くなって枯れることもある。汁を吸う時にウイルス病を媒介し、葉の色が白くまだらになったり、葉が萎縮したりする。4～6月と9～11月に発生が多い。モモアカアブラムシはナス・キュウリ・ホウレンソウ等にも発生する為、注意が必要。

タマネギの栽培

～冷涼な気候を好むので、御殿場・小山は栽培に適しています！
しかし酸性土壤に弱いので、ほ場準備をしっかりと行いましょう！～

1. 特徴

タマネギ栽培は、**良い苗作りが基本**です。早まきして大苗で越冬するととう立ちしてしまう為、品種ごと種まき時期を守り、**適正サイズの苗を育てることが大切**です。
※育苗期間（生育初期）は**－８℃程度の寒さにも耐えるが、暑さに弱く２５℃以上になると生育は抑制されるので注意**が必要です。

- ・播種時期：９月中旬 ①発芽適温：１５～２０℃
- ・定植時期：１１月中旬 ②生育適温：１５～２０℃ ③肥大適温：１５～２５℃

2. 播種・育苗

苗床育苗

- ①種まきの数日前に幅８０cm程度のベッドを作り、園芸化成s５５０と苦土石灰を１㎡当り５０g施用し、管理機等で耕運する。
- ②苗床の表面の土をならしておき、まき溝を付け溝の中に１～１.５cm間隔に種をまき、種が隠れる程度（５mm程度）に覆土を行う。
- ③種まき後１週間程度で発芽するが、**発芽当初は生育が遅く不揃いになりやすいので、苗床が乾いたら水やりを行う。**
※苗床が湿り過ぎると苗立枯病が発生するので多灌水には注意が必要。
- ④本葉２枚の頃に混んでいる所を間引いて、株間を約２cm間隔に揃える。
- ⑤発芽後２０日頃に、園芸化成s５５０を１㎡当り３０g施用する。

～栽培のポイント～

- ・幼苗時は**乾燥に弱い為、灌水をこまめに行う。**
- ・覆土が深いと発芽が揃わず欠株にも繋がる。また、**浅過ぎても転び苗や乾燥害を受けやすくなる。**

セルトレイ育苗

- ①２００穴セルトレイを用意し、ネギ用培土を詰め５mm程度に**均一な深さ**の種穴を開け、１穴１粒ずつ播種を行う。
- ②**均一に覆土**をかけ、板などで平らにならし、**底面給水を行う。**
- ③**発芽直後までは乾燥させないよう、適宜灌水**を心掛ける。本葉２葉期以降は萎れに注意し、尚且つ伸び過ぎないように灌水間隔や回数に注意する。（地面に直接置かず、ビール瓶ケース等の上で管理するとよい）

～栽培のポイント～

- ・タマネギは育苗期間が長い為、セルトレイで育苗する場合はネギ用培土など**肥効期間の長い培土**を使用する。
※ネギ専用の培土が無い場合には、育苗期間中に肥切れになる可能性がある為、**葉色を見ながら適宜、パワフルグリーン１号等の液肥**を施用する。
- ・セルトレイは、１穴の培土量が少なく乾燥しやすい為、苗床育苗に比べて灌水や追肥などで細かい管理が必要になる。

3. 施肥

	資材名	１a当りの施肥量	備 考
堆 肥	牛ふん堆肥	１００kg	定植の１ヶ月前に施用
土壤改良剤	苦土石灰（粒）	１０kg	
元 肥	ジシアン有機S８０６	１６kg	定植の１週間前に施用
追 肥	NK化成16-0-16	３kg	２月上旬と３月上旬の２回施用

4. 定 植

苗の大きさ：５～６mm（鉛筆程度）の太さの苗を定植する。**太く育ち過ぎた苗を定植すると、春先に分球やとう立ちの原因**となる。

ほ場準備：定植１ヶ月前までに、牛ふん堆肥と苦土石灰（粒）を施用し、**できるだけ深く耕運**する。

定 植（１a当り）

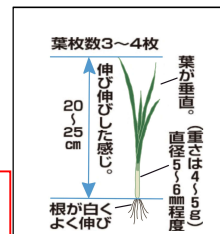
- ①ジシアン有機s８０６とダイアジノン粒剤５（作条土壤混和）を施用し耕運する。
- ②マルチの幅に合わせた畝たてを行う。
- ③苗を**２～３cmの深さで定植（葉の分岐点が埋まらない深さ）**。
※霜等で苗が浮いてしまった場合は押し直しを行い、手や足で土を鎮圧し浮き上がりの再発を防止する。

定植後の管理（１a当り）

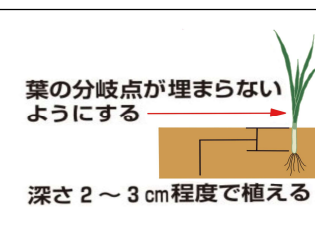
追肥…２月上旬と３月上旬（止め肥）の２回、全農化成17-0-17を３kg施用する。

※止め肥の遅れや過剰施肥は、病虫害発生の助長や、貯蔵中の腐敗の原因となる。

防除…べと病や疫病の防除が重要。**発生前の予防的防除**を心掛ける。



定植苗の目安



薬剤名	系 統 FRAC	対象病虫害	倍 率	1a 当り 使用液量	使用回数	収穫前
ダイアジノン粒剤5	1 B	コガネムシ幼虫類 タマネギバエ・タネバエ	5 0 0 g／1 a ※土 壤 混 和 する		2回以内	30日前まで
プロボーズ顆粒水和剤	40・M5	べと病・白色疫病等	1,000倍	10～30ℓ	3回以内	7日前まで
Zボルドー	M 1	軟腐病・べと病等	500倍	10～30ℓ	—	—
リドミルゴールドMZ	4・M03	べと病・白色疫病	500倍 1,000倍	10～30ℓ	3回以内	7日前まで

たまねぎは水を弾いてしまう為、ササラ等の展着剤と共に散布しましょう！

べと病：感染すると草丈が低く、葉の光沢が無くなり淡黄緑色になる。生育も遅れ、葉は横にやや湾曲する。二次感染では葉・花茎に凹んだ病斑を形成し、白色や暗紫色のかびを生じる。**排水の悪いほ場は高畝栽培し過湿を避ける。**

白色疫病：主に葉に発生。葉身中央から先端部に暗緑色の病斑を形成し、病斑部を内側にして葉身が曲がり、乾枯すると灰白色になる。**排水の悪いほ場では高畝栽培し過湿を避ける。早めに薬剤散布し防除を徹底する。**